

その20-1 東京・塩竈間几号水準点めぐり 白河・矢吹（レンタカー利用 距離約？km）



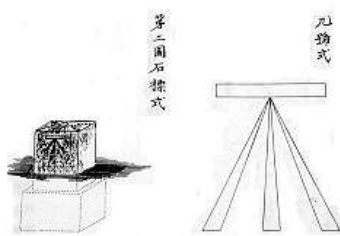
五本松（並木）

地図豆知識：几号高低測量の水準点

明治7年（1874）に「関八州大三角測量」としてスタートした、内務省地理寮の測量は、その後全国展開することになり、改称された内務省地理局によってその名も「大三角測量」と変更されて実施された。その三角網に大きさを与えるため、三角形の一辺の長さを正確に知る那須基線測量が実施された。

さらに平均海面からの高さを知るために、明治9年に東京・塩釜間の水準測量が開始され翌年に終了した。塩釜まで実施した理由は、石巻湾開港のためと東京湾との海面高の違いを調査する目的もあったといわれる。

一連の測量はいずれも、英人 マクヴィーンなどの指導で実施されたことからか、水準点にはイギリスで使用されている「丕」状の記号を石柱、華表（鳥居）、石垣、欄干などの構造物に刻んだものが使用された。これが、几号高低測量の水準点と呼ばれるものである。



几号水準点標石の規格

この、明治9年に行われた日本で最初の本格的な東京・塩竈間水準測量の（几号）水準点標石探しを主に、地形図に陸羽街道の道筋らしきルートマークして現地を訪ねてみる。道すじには、予想以上に多くの昔が残っていて、楽しい道歩きになるはずだ。

【道順】

00 白河駅・小峰城→01 三角点小峰城→02 水準点 2095→03 戊辰戦争碑→04 遊女しげ女の碑→05 根田醤油→06 水準点 2096→07 泉田ツツジ山→08 小野薬師堂→09 小田ノ里集落→10 宝積院→11 小田ノ里八幡神社→12 水準点 2098→13 武光地蔵→14 常願寺→15 太田川集落→16 太田川愛宕神社→17 太田川峠の路傍碑→18 松並木の新池→19 愛宕神社の几号水準点→20 踏瀬熊野神社→21 踏瀬集落→22 五本松→23 卯衛門茶屋→24 大和内峠→25 執心地蔵尊→26 馬頭観音→27 水準点 2101→28 道路元標→29 矢吹駅→30 矢吹石地蔵の几号水準点

00 白河駅・小峰城：駅のホームからも城が見える白河駅を出て、まずは小峰城をめざす。

01 三角点小峰城：東北では珍しい総石垣造りの城で、盛岡城、若松城とともに東北三名城のひとつにも数えられている小峰城は、1868年（慶応4年）の戊辰戦争で、奥羽越列藩同盟軍と新政府軍との激しい攻防の舞台となり、5月1日、大半を焼失し落城した。小峰城散策がてら、城内にある四等三角点を訪ねて、陸羽街道歩きをスタートさせる。

02 水準点：地図を見ると街道筋に発達した町であることが歴然としている向寺集落を通り、水準点 2095 へと進む。国道 4 号線は随所でバイパスが整備されているが、水準点が設置された経路は、少なくとも 1 世代前の国道 4 号線である。

03 戊辰戦争碑：戊辰戦争の際に白河口などで戦死した仙台藩士を慰霊する「戊辰戦争戦死者の碑」がある。「戊辰戦争・白河口の戦い」は、約 100 日間にわたる激戦が続き、千名を超える死傷者があった。戦後白河の人々は、敵味方問わず戦没兵士を葬り、碑を建てたので、市内には両軍合わせて 30 ほどの碑が残るといふ。

04 遊女しげ女の碑：長州藩士を逃走させたとして会津藩主に殺害された「遊女しげ女の碑」のあるあたりは、明らかに旧街道だ。

05 根田醤油：現在の国道を北へ、そして東へと跨いで、「萱根（旧根田宿）」集落に入る。入り口には、簡易郵便局も兼ねる根田醤油の事務所があり、醤油樽の並ぶようすも見られる。200 年の風雪に耐えた土蔵の木桶に、昔ながらの製法でじっくりとふた夏を越した「二年もろみ醤油」と大豆と米の配合が同量のもっとも贅沢なみそ「十合米糍みそ」が自慢だとか。

06 水準点 2096：「萱根」で、北へ折れた街道の西にあるシンプルな水準点 2096 を見る。

07 泉田ツツジ山：泉田集落には、手入れされたツツジ山（個人宅）があって、旧街道筋の集落には、立派な大谷石造りの蔵を持つ家が多い。

08 小野薬師堂：「小田ノ里（旧小田川宿）」の入り口には、やや廃れた小野薬師堂がある。

- 09 小田ノ里集落：「小田ノ里」の通りの東側には、清水が流れていたと思われるが、暗渠と化しているのが残念だ。天領であった為か、間口が広く、立派な屋敷が並び、集落の中央には、庄屋宅を思わせる大きなお宅がある。
- 10 宝積院：国道を渡った先には、米沢藩が宿所にしたという宝積院があり、墓地の高まりに立つと、高速道路、現国道、旧街道の並行して走るようすが見える。
- 11 小田ノ里八幡神社：「小田ノ里」集落の中ほど、高速道路の向こう林の中に八幡神社がある。
- 12 水準点 2098：泉川を渡った先の草むらに、一等水準点 2098 標石がぽつんと立っている。
- 13 武光地蔵：小さな峠の林の中に、ふくよかで立派な風体の「武光地蔵」が立っていて、旅人を迎えてくれる風だ。地元では「首切り地蔵」や「二身堂地蔵」とも呼ばれて、こんな伝説があるという。
その昔、伊達の居合抜きの達人として知られる侍が奥州街道を江戸へ向かうため、この地を通ろうとした。前方に妖しい女の影が現われ、侍は持っていた「武光」で斬り捨てた。侍は事を終え江戸から帰りにふたたびこの地を通ると、道ばたには真二つに切断された石地蔵が転がっていたという。村人は、首を元のように修復し、この地蔵を切りつけた刀銘が「武光」であったので、武光地蔵と呼ばれる様になった。
- 14 常願寺：奥州街道 30 番目の宿場・太田川宿入り口にある常願寺には、樹齢 600 年のみごとな枝ぶりを見せるしだれ桜がある。
- 15 太田川集落：「太田川（宿）」集落の中央にも、庄屋宅を思わせる立派な屋敷がある。それは、元検断の家だという。検断とは、当時の警察権、刑事裁判権を持つ大庄屋のこと。集落の出口は、いわゆる枡形になっている。
- 16 太田川愛宕神社：枡形になる道の正面に、危険を感じるほど急な 181 段の石段のある愛宕神社からの眺めは絶品だ。石段下の鳥居脇には樹齢 120 年の枝垂桜、石段途中には、いわれがありそうな「巳（己？）侍供養碑（文化十年）」がある。
- 17 太田川峠の路傍碑：太田川集落北の峠付近には石塔が並び、小さく上下する道は旧街道にふさわしい。並ぶのは、馬頭観世音、十八夜塔、湯殿山碑等。
- 18 松並木の新池：坂道を下った先にある新池の土堤には、枝ぶりのいい松が並び、水面は静かだ。松は、樹齢 200 年とか。
- 19 愛宕神社の几号水準点：「踏瀬」集落の入口の愛宕神社鳥居には、明治初期にイギリスからの技術をもとに設置した「几号水準点」が刻まれている。

- 20 踏瀬熊野神社：「踏瀬」集落の中ほど、国道の向こう側の森に、狛犬が並ぶ熊野神社がある。
- 21 踏瀬集落：松林や竹林を背負った「踏瀬」の集落にも、立派な庭や土蔵を併せ持った家が多い。中心部には、かつての庄屋で問屋を務めた筋内家がある。踏瀬宿の外れには、枝垂桜の見事な慈眼寺もある。
- 22 五本松：白河藩主松平定信が、自領内の街道沿いに 2300 本の松苗を植えたのが始まりで、現在の松並木は明治 18 年ころに補植したという見事な「五本松の松並木」が続く道は、旧街道そのものだ。
- 23 卯衛門茶屋：美味しい水が自慢であったという「卯衛門茶屋跡」には、当時のままに井戸が残されている。
- 24 大和内峠：七曲り峠（大和内峠）の矢吹側にも「文七茶屋」があったといい、旧街道は車道のさらに東側を通っていたという。
- 25 執心地蔵尊：旧大和久宿の中ほどには、山王寺があって、枝や幹が地面を這うような黒松がある。「臥竜の松」と呼ばれ、樹齢約 200 年とのこと。大和内集落を過ぎた森の中には「執心地蔵堂」がある。
- 26 馬頭観音：旧国道でもある陸羽街道の脇には、馬頭観音の石標があり、大山祇神社、幸福寺などと続く。
- 27 水準点 2101：周囲をコンクリートに囲まれた一等水準点 2101 を見る。街道左には、幸福寺があって、樹齢 150 年の枝垂桜がある。
- 28 道路元標：奥州街道 34 番目の宿場へ。矢吹宿矢吹町市街地には、大正 8 年設置の矢吹町道路原標がある。
- 29 矢吹駅：駅入り口には、自然郷蔵元と染め抜かれた大きな暖簾が掛かる大木代吉本店という名の造り酒屋がある。慶応元年（1865 年）創業だとか。終点の矢吹駅（舎）は、トンボの眼を思わせるようなデザインだ。
- 30 矢吹石地蔵の几号水準点：コース外だが、矢吹町北町の石地蔵の台石にも、東京塩竈間の几号水準点がある。

+ * * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu + * * * +